

令和元年
台風一五号

旧尾形家

梅林

御本堂

多宝塔

重要文化財

旧尾形家住宅

きゅうおがたけじゅうたく

台風被害 の 復旧工事

令和元年9月8日に千葉県へ上陸した台風15号によって石堂寺では複数の建物に被害がおよびました。現在、境内ではその復旧工事を行っています。

Due to Typhoon No. 15 that landed in Chiba Prefecture on September 8, 2019. Several buildings were damaged at Ishido-ji Temple. Currently, restoration work is underway in the precincts.

事業名称	重要文化財（建造物）旧尾形家住宅 保存修理（災害復旧）事業
事業者	南房総市
計画地	千葉県南房総市石堂301
設計監理	（公財）文化財建造物保存技術協会
施工	株式会社 越乃かやぶき
工期	令和2年5月～令和2年1月（予定）



本事業は文化庁と千葉県、南房総市の補助を得て実施しています。

台風による被害

かやぶき 茅葺き

茅（ススキなど）の植物の束を藁縄で建物に縛りつけ、刈り込んだ屋根。前回の修理から20年以上経過しており、一部が風で吹き飛ばされてしまいました。

むなづみ 棟 積

屋根の最上部に積む雨水除け。地域の特徴があらわれることが多く、旧尾形家住宅も特徴的な装飾がなされていましたが、一部が崩れてしまいました。

つちかべ 土 壁

竹を編んだ下地に、藁などをまぜて発酵させた土を用いて塗った壁。強い風雨にさらされて、一部が剥がれてしまいました。

たてぐ 建 具

板戸のスギ板や障子の障子紙が、強い風によって破損してしまいました。

旧尾形家住宅について

旧尾形家住宅は主屋と土間からなる分棟でつくられた大型農家です。以前は同市内の旧安房郡丸山町に建っていました。柱の残っていた墨書から享保13年（1728）に建てられたことがわかっています。江戸時代末期には主屋と土間を一つの屋根で覆う改造がなされましたが、昭和47年（1972）に行われた修理で旧丸山町に寄贈されるとともに現在の地に移築され、当初のかたちに復原されました。この地域の大型農家の典型として価値が高く、また縦横に組まれた重ね梁の意匠は大変すぐれています。

